令和5年度　九州医療専門学校　柔道整復師科

科　目　名	基礎柔道整復学1	学　　年	1　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が基礎柔道整復学1において教科書を使いながら解説する。		

一般目標（GIO）

本科目は根拠や理論に基づいた柔道整復術をおこなえるように、

骨に関する解剖学や生理学及び骨折の基礎知識を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	4	10	2	骨の構造	骨の構造を十分に理解し、説明できる。
2	4	17	2	骨の形態と機能	骨の機能など図示し、説明できる。
3	4	24	2	骨折の分類	骨の性状などを理解し、各骨折の違いが説明ができる。
4	5	1	2	骨損傷の分類	不全骨折の種類を特に理解する。
5	5	8	2	骨折線の走行による分類	様々な骨折線の走行を理解し説明できる。
6	5	15	2	外力の働き方による分類	特に屈曲骨折を十分に理解する。
7	5	22	2	骨折の固有症状	一般外傷症状との違いを理解する。
8	5	29	2	合併症①（併発症）	併発症について説明できる。
9	6	5	2	合併症②（続発症）	続発症について説明できる。
10	6	12	2	合併症③（後遺症）	後遺症について説明できる。
11	6	19	2	小児骨折①	小児骨折について説明できる。
12	6	26	2	小児骨折②	小児と高齢者の骨折の違いを理解し説明できる。
13	7	3	2	高齢者骨折	高齢者骨折について説明できる。
14	7	10	2	骨折の癒合・治癒経過	骨の治癒について説明できる。
15	7	24	2	骨折の予後	好適因子・不適因子の違いを十分理解し説明できる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整整復学・理論編　改定第7版	
	%	解剖学	
	%	生理学	
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）　4限目（14:20～15:50）

令和5年度　九州医療専門学校　柔道整復師科

科　目　名	基礎柔道整復学2	学　　年	1　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	30時間　15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が関節や関節を構成する組織の損傷、神経損傷について教科書を用いて解説する。		

一般目標（GIO）

個々の外傷を学ぶ前段階として関節の構造や関節を構成する組織の損傷、神経の構造と機能および神経損傷の基本的なことがらを理解することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	4	10	1	関節の構造	関節の基本的な構造を理解する。
2	4	17	1	関節構成組織	関節を構成する各組織の役割を理解する。
3	4	24	1	関節構成組織	関節を構成する各組織の役割を理解する。
4	5	1	1	関節部損傷の概説 関節部損傷の分類	脱臼、捻挫の定義を理解する。 関節部損傷の分類における分け方を理解する。
5	5	8	1	靭帯・関節包の損傷	靭帯損傷の程度による分類、症状、治癒機序を理解する。
6	5	15	1	関節周辺の筋・腱損傷 関節軟骨損傷	関節軟骨損傷の発生機序、分類、症状、治癒機序を理解する。
7	5	22	1	その他関節構成組織の損傷	関節唇、関節円板および半月、滑液包、関節部に分布もしくは通過している神経、血管の損傷を理解する。
8	5	29	1	筋の構造と機能	筋の基本的な構造と機能を理解する
9	6	5	1	筋損傷の分類	各筋損傷の分類における分け方を理解する。
10	6	12	1	筋損傷の症状 筋損傷の治癒機序 筋損傷の予後	筋損傷の症状、治癒機序、予後を理解する
11	6	19	1	腱の構造と機能	腱の基本的な構造と機能を理解する。
12	6	26	1	腱損傷の分類	各腱損傷の分類における分け方を理解する。
13	7	3	1	腱損傷の症状 腱損傷の治癒機序	腱損傷の症状 腱損傷の治癒機序を理解する。
14	7	10	1	神経の構造と機能 神経損傷の分類	神経の基本的な構造と機能を理解する。 各神経損傷の分類の分け方を理解する。
15	7	24	1	末梢神経損傷の症状 末梢神経損傷の治癒過程	末梢神経損傷の症状、治癒過程を理解する。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	柔道整復学・理論編　改定第7版	
	%	柔道整復学・実技編　改訂第2版	
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）　4限目（14:20～15:50）

令和5年度　九州医療専門学校　柔道整復師科

科　目　名	基礎柔道整復学3	学　　年	1　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が患者の診察時の注意点、施術計画の立て方、整復や固定、後療法などの基本的なことがらについて、教科書を用いて解説する。		

一般目標（GIO）

各損傷を学ぶ前段階として、患者の診察に当たっての注意点、整復法や固定法、後療法や外傷予防についての基本的なことがらを理解することを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	4	13	4	診察① A診察の注意点 B手順の概説	診察時の患者への対応を理解する。 診察のおおまかな流れと注意点を理解する。
2	4	20	4	診察② C時期による分類 D治療計画の作成 E施術録の扱いと記載	外傷の治療における時期ごとの評価を理解する。 治療計画の作成、施術録の扱いと記載を理解する。
3	4	27	4	骨折の整復法	非観血的整復法の要点 骨折整復法の原則、 骨折整復法の分類を理解する。
4	5	11	4	脱臼の整復法	非観血的整復法の要点、脱臼整復の原則 整復法の分離を理解する。
5	5	18	4	軟部組織損傷の初期処置	捻挫の初期処置、筋損傷の初期処置、 腱損傷の初期処置を理解する。
6	5	25	4	固定法	固定の目的、固定の種類、固定の範囲、固定の肢位、 固定の期間を理解する。
7	6	1	4	固定法	固定の材料、固定後の全身的な変化、局所的な変化 再固定の必要性の判断、固定具の変更、除去の判断を 理解する。
8	6	15	4	固定法	患肢保持の方法、固定中の運動、緊急時の対応、 日常生活の注意点、二次的愁訴、固定除去時の注意点を 理解する。
9	6	22	4	後療法	用量、手技療法の基本型、適応、禁忌を理解する。
10	6	29	4	後療法	運動の基本型、運動療法の種類、運動療法の適応、 開始時期、禁忌を理解する。
11	7	6	4	指導管理	患者の環境に対する指導管理を理解する。
12	7	13	4	指導管理	住居環境に対する指導管理を理解する。
13	7	20	4	外傷予防	外傷予防の第一段階を理解する。
14	7	27	4	外傷予防	外傷予防の第二段階を理解する。
15	8	3	4	外傷予防	外傷予防の第三段階を理解する。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	柔道整整復学・理論編　改定第7版	
	%	柔道整整復学・実技編　改定第2版	
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）　4限目（14:20～15:50）

令和5年度　九州医療専門学校　柔道整復師科

科　目　名	基礎柔道整復学4	学　　年	1　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が、脱臼の分類や症状、合併症などを教科書を用いて解説する。 その他、軟部組織損傷に関しても要点を解説する。		

一般目標（GIO）

脱臼の定義および分類の仕方、症状、合併症などの基本的な部分について理解し、各関節の脱臼を学ぶ際に

活かせるようにすることを目標とする。また、脱臼に付随して起こる軟部組織の損傷についても理解することを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	10	5	3	脱臼の定義	脱臼の定義を理解する。
2	10	12	3	脱臼の分類	関節の性状による分類を理解する。 関節面相互による位置による分類を理解する。
3	10	19	3	脱臼の分類	脱臼の数による分類を理解する。 外力の働いた部位による分類を理解する。
4	10	26	3	脱臼の分類	脱臼の発生時期による分類を理解する。 受傷後の経過を理解する。
5	11	2	3	脱臼の分類	脱臼の頻度と機序による分類を理解する。
6	11	9	3	脱臼の症状	一般外傷症状と固有症状を理解する。
7	11	16	3	脱臼の合併症	脱臼に合併しておこる骨折や各軟部組織の損傷などに ついて理解する。
8	11	30	3	脱臼の整復障害	脱臼の整復障害因子を理解する。
9	12	7	3	脱臼の経過と予後	脱臼の異常経過や後遺症について理解する。
10	12	14	3	靭帯・関節包の損傷	損傷の程度による分類を理解する。 症状および治癒機序を理解する。
11	12	21	3	関節軟骨損傷	症状および治癒機序を理解する。
12	1	11	3	筋の損傷	筋損傷の程度による分類、治癒機序を理解する。
13	1	18	3	腱の損傷	腱損傷の程度による分類、治癒機序を理解する。
14	1	25	3	末梢神経の損傷	セドンの分類・サンダーランドの分類を理解する。
15	2	1	3	末梢神経の損傷	症状、治癒過程を理解する。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	柔道整復学理論・理論編　改訂第7版	
	%	柔道整復学理論・実技編　改訂第2版	
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）　4限目（14:20～15:50）

令和5年度　九州医療専門学校　柔道整復師科

科　目　名	基礎柔道整復学5	学　　年	3　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	30時間　15回	専任　・　兼任	兼任
実務経験			

一般目標（GIO）

1. 柔道整復術及び柔道整復師の沿革，業務範囲，社会保険医療制度，倫理綱領について理解する.
2. 組織の損傷によって発生する痛みのメカニズムを生理学的観点から理解し評価・アプローチなどにつなげていく.

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	4	6	3	柔道整復術の沿革	柔道整復術の体系化に寄与した代表的な人物を学び，柔道整復術が公認されるまでの経緯を理解する.
2	4	13	3	柔道整復師の沿革	柔道整復師法の成立から指導要領の制定されるまでの経緯を理解する.
3	4	20	3	柔道整復術の現代的意義	現代における柔道整復師の役割をを理解する.
4	4	27	3	業務範囲およびX線と附帯決議	業務範囲に対する行政の見解を含めて理解する.
5	5	11	3	療養費と受領委任払い制度	現在の社会保険医療における現物給付，現金給付などの制度を理解する.
6	5	18	3	人体に加わる力	静力学的荷重，静力学的能動力などについて理解する.
7	5	25	3	損傷時に加わる力	急性，亜急性の定義について理解する.
8	6	1	3	損傷時の力の種類	直達外力，介達外力について理解する.
9	6	15	3	損傷時の力に影響を与える要素	力の方向や作用時間，作用回数などがあることを理解する.
10	6	22	3	痛みの種類	侵害受容性，神経因性・心因性の疼痛について理解する,
11	6	29	3	痛みのメカニズム（運動器）	Aδ線維とC線維の機能の違いを理解する.
12	7	6	3	急性痛と慢性痛	急性痛と慢性痛の違いを生理学的観点から理解する.
13	7	13	3	痛みの評価	NRS，VAS，フェイススケールなどの評価表を理解する.
14	7	20	3	痛みへのアプローチ	運動療法，物理療法など生理学的観点から理解する.
15	7	27	3	総復習	第1～14回の重点項目について理解を深める.

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編(改訂第6版) 生理学（改訂第4版）	
	%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）　4限目（14:20～15:50）

科　目　名	基礎柔道整復学6	学　　年	3　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が基礎柔道整復学6において、柔道整復師の臨床において業務の基礎となる、各組織損傷の概要や特徴について、基本的な知識を修得するための講義を行う。		

一般目標（GIO）

本科目は、柔道整復師の業務範囲である骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷などの外傷ならびに障害の概要や特徴を学び、臨床的知識・能力を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	9	22	4	骨の損傷①	骨損傷についての概要・特徴を理解し説明できる。
2	9	29	4	関節の損傷①	関節損傷についての概要・特徴を理解し説明できる。
3	10	6	4	筋の損傷①	筋損傷についての概要・特徴を理解し説明できる。
4	10	13	4	腱の損傷①	腱損傷についての概要・特徴を理解し説明できる。
5	10	20	4	神経の損傷①	神経損傷についての概要・特徴を理解し説明できる。
6	10	27	4	骨の損傷②	骨折の分類や症状、合併症について理解し説明できる。
7	11	10	4	関節の損傷②	脱臼の分類や症状、合併症について理解し説明できる。
8	11	17	4	筋の損傷②	筋損傷の分類や症状、合併症について理解し説明できる。
9	11	24	4	腱の損傷②	腱損傷の分類や症状、治癒機序について理解し説明できる。
10	12	1	4	神経の損傷②	神経損傷の分類や症状、治癒機序について理解し説明できる。
11	12	8	4	骨の損傷③	小児・高齢者骨折について理解し説明できる。
12	12	15	4	関節の損傷③	関節損傷の予後や、鑑別を要する類症について理解し説明できる。
13	12	22	4	筋の損傷③	筋損傷の予後や、治癒機序について理解し説明できる。
14	1	5	4	骨の損傷④	骨折の癒合日数、治癒経過について理解し説明できる。
15	1	12	4	骨の損傷⑤	骨折の予後や、治癒に影響を与える因子について理解し説明できる。

評価基準		教科書	参考書
期末テスト	100%	柔道整復学・実技編 柔道整復学・理論編	プロメテウス解剖学 標準整形外科
	%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）　4限目（14:20～15:50）

令和5年度　九州医療専門学校　柔道整復師科

科　目　名	基礎柔道整復学 7	学　　年	3 年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1 単　位	講義 ・ 実習	座学
時間数・授業回数	30時間　15回	専任 ・ 兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年		

一般目標（GIO）

本科目は、柔道整復師になるために必要な整復、固定、後療法及び指導管理について学ぶ

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	4	10	2	整復法Ⅰ	徒手整復施行時の配慮が理解できる
2	4	17	2	整復法Ⅱ	骨折の整復法が理解できる
3	4	24	2	整復法Ⅲ	脱臼の整復法が理解できる
4	5	1	2	整復法Ⅳ	徒手整復後の確認と配慮ができる
5	5	8	2	整復法Ⅴ	軟部組織損傷の初期処置が理解できる
6	5	15	2	固定法Ⅰ	固定施行時の配慮が理解できる
7	5	22	2	固定法Ⅱ	固定後の配慮が理解できる
8	5	29	2	後療法Ⅰ	後療法についての用量が理解できる
9	6	5	2	後療法Ⅱ	後療法についての準備が理解できる
10	6	12	2	後療法Ⅲ	後療法についての手技療法が理解できる
11	6	19	2	後療法Ⅳ	後療法についての運動療法が理解できる
12	6	26	2	後療法Ⅴ	後療法についての物理療法が理解できる
13	7	3	2	指導管理Ⅰ	患者とその環境の把握が理解できる
14	7	10	2	指導管理Ⅱ	患者の環境に対する指導管理が理解できる
15	7	24	2	指導管理Ⅲ	患者の自己管理に対する指導が理解できる

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	柔道整復学　理論編・実技編	
	%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）

令和5年度　九州医療専門学校　柔道整復師科

科　目　名	基礎柔道整復学8	学　　年	3　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	実技
時間数・授業回数	30時間　15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年		

一般目標（GIO）

臨床柔道整復学8において、頭部・頚部の損傷の概要や特徴を学ぶ。

正しく鑑別出来る知識を習得し、柔道整復師として対応できる整復法、固定法、治療法を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	9	26	2	頭部・顔面部の解剖と機能　頭部・顔面部の骨折①	頭部・顔面部の機能解剖を理解し頭蓋冠骨折の骨折の種類を学ぶ。
2	10	3	2	頭部・顔面部の骨折②	頭部外傷時対応マニュアルを理解する。頭蓋底骨折の特徴を学ぶ。
3	10	10	2	頭部・顔面部の骨折③	顔面部の骨折の特徴を理解する。
4	10	17	2	顎関節脱臼	顎関節脱臼の分類、特徴、整復法を学ぶ。
5	10	24	2	頭部・顔面部の軟部組織損傷①	頭部、顔面部の打撲の特徴、顎関節症の分類を理解する。
6	10	31	2	頭部・顔面部の軟部組織損傷②	顎関節症の各々の特徴と外傷性顎関節捻挫について理解する。
7	11	7	2	頚椎の解剖と機能　頚椎の骨折①	頚椎の機能解剖を理解し、上位頚椎骨折の分類とそれぞれを理解する。
8	11	14	2	頚椎の骨折②	中・下位頚椎骨折の分類とそれぞれの特徴を理解する。
9	11	21	2	頚部の脱臼　軟部組織損傷①	頚椎脱臼の特徴、外傷性頚部症候群（むちうち）の分類と特徴を理解する。
10	11	28	2	頚部の軟部組織損傷②	胸郭出口症候群の分類や特徴、寝違えの特徴を理解する。
11	12	5	2	頚部　注意すべき疾患①	斜頸、頚部椎間板ヘルニアの特徴を理解し、テスト法を確認する。
12	12	12	2	頚部　注意すべき疾患②	頚椎症、OPLL、頚椎の炎症性病変の特徴を理解する。
13	12	19	2	頚部　注意すべき疾患③	外傷性腕神経叢麻痺、分娩麻痺、副神経麻痺の特徴を理解する。
14	12	26	2	頚部　注意すべき疾患③	長胸神経麻痺、頚髄損傷、先天性奇形の特徴について理解する。
15	1	9	2	頭部・頚部の柔道整復理論まとめ	頭部から頚部のけがに対する柔道整復師としての対応を理解する。

評価基準		教科書	参考書
期末テスト	100%	柔道整復学・理論編第6版 柔道整復学・実技編第2版	
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）

令和5年度　九州医療専門学校　柔道整復師科

科　目　名	基礎柔道整復学9	学　　年	3　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が基礎柔道整復学9において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。		

一般目標（GIO）

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、

本学科では、下肢の軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1	4	5	2	鼠径部症候群・ばね股・ペルテス病	ペルテス病の発生機序を理解する。
2	4	12	2	すべり症・大腿部肉離れ・大腿部打撲	肉離れと打撲の違いを理解する。
3	4	19	2	変形性股関節・膝関節症	変形性関節症の特徴について理解する。
4	4	26	2	半月板損傷	半月板損傷の発生機序と分類について特に理解する。
5	5	10	2	十字靭帯損傷	十字靭帯の走行を確認し、特に発生機序を理解する。
6	5	17	2	側副靭帯損傷	左右の側副靭帯の特徴を理解する。
7	5	24	2	鵞足炎・分裂膝蓋骨・ランナー膝	特に分裂膝蓋骨を理解する。
8	5	31	2	ジャンパー膝・ベーカー嚢腫・タナ障害	ベーカー嚢腫の発生機序を理解する。
9	6	7	2	アキレス腱炎・周囲炎・滑液包炎	アキレス腱の特徴について総論から復習する。
10	6	14	2	下腿三頭筋肉離れ・シンスプリント	特にシンスプリントの症状の特徴について理解する。
11	6	21	2	足関節外側靭帯損傷	内側外側靭帯の付着部、足首の動きを理解する。
12	6	28	2	足根洞症候群・腓骨筋腱脱臼	腓骨筋腱脱臼について理解する。
13	7	5	2	衝突性外骨腫・三角骨障害	過剰骨について理解する。
14	7	12	2	セーバー病・外脛骨・踵骨棘	足部の骨端症について理解する。
15	7	19	2	モートン病・フライバーグ病・外反母趾・第1ケーラー病	足部・足趾の特徴を運動学的に理解する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編　改訂第6版	
	%	柔道整復学・実技編　改訂第2版	
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（12:40～14:10）　4限目（14:20～15:50）

令和5年度　九州医療専門学校　柔道整復師科

No 1

科　目　名	外傷の保存療法	学　　年	2　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	15時間　8回	専任　・　兼任	兼任
実務経験			

一般目標(GIO)

身体各部によくみられる外傷について解剖学・運動学の観点から理解し，その外傷が保存療法の適応であるか否かを，患部の視診・触察・徒手検査などを用いて判定し、保存療法を実践できることを目標とする.

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	6	4	外傷の保存療法概説	外傷の保存療法とはなにか理解する.
2	4	13	4	体幹の外傷と保存療法の適応判定	体幹のスポーツ外傷及び保存療法の適応について理解する.
3	4	20	4	体幹の外傷の保存療法と治療評価	体幹のスポーツ外傷の保存療法と評価について理解する.
4	4	27	4	上肢の外傷と保存療法の適応判定	上肢のスポーツ外傷及び保存療法の適応について理解する.
5	5	11	4	上肢の外傷の保存療法と治療評価	上肢のスポーツ外傷の保存療法と評価について理解する.
6	5	18	4	下肢の外傷と保存療法の適応判定	下肢のスポーツ外傷及び保存療法の適応について理解する.
7	5	25	4	下肢の外傷の保存療法の治療評価	下肢のスポーツ外傷の保存療法と評価について理解する.
8	6	1	4	総復習	第1～7回の重点項目を総復習し理解を深める.
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・実技編(改訂第2版)	
	%	柔道整復学・理論編(改訂第6版)	
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(12:40～14:10)　4限目(14:20～15:50)